

令和4年9月16日

施設利用者の皆様へ

公益財団法人富田林市文化振興事業団
(すばるホール施設管理者)

催物の開催制限等について

施設ご利用の皆様におかれましては、「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（公益社団法人全国公立文化施設協会）」を厳守のうえ、施設のお申し込み並びにご利用をお願いいたします。

【施設のご利用にあたってのお願い】

- マスクは原則常時着用してください。
- 手指の消毒や手洗いを徹底してください。
- 大声を出さない、咳エチケットを周知してください。
- 相互の社会的距離（できるだけ2m（最小1m）を確保してください。
- 各施設への入退場時に、密にならないよう入場者の整理をしてください。
- 販売等を行う場合、人と人が対面する場所にはアクリル板、透明ビニールなどで遮蔽してください。
- 参加者の入れ替えが生じたときは、主催者（利用者）において入れ替え時に消毒を行ってください。
- 換気を行ってください。
- 飲食を目的としたご利用は制限の対象とします。
- 平熱と比べて高い発熱がある場合や、下記の症状等に該当する方がいた場合には入場制限等の対応をとってください。

≪咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉、痛、下痢、嘔気・嘔吐等の症状、PCR検査で陽性とされた者との濃厚接触がある場合、過去2週間以内に入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合等≫

公演主催者に協力を求める具体的な感染防止策

(1) 事前調整

公演主催者は、施設に利用申込みを行う時点、若しくは公演概要を検討する時点で、事前にリスク評価を踏まえ、以下を含む必要とされる実施概要について施設管理者と協議してください。

予定されている公演におけるガイドラインを踏まえた防止策について、具体的な個々の措置と施設側及び公演主催者側の役割分担を調整してください。仕込み・リハーサル・撤去において余裕あるスケジュールを設定してください。休憩時間や入退場時間は余裕を持った設定をしてください。

来場者が多数になることが見込まれる公演については、各都道府県において示された対応指針等に基づいて、実施の可否及び実施する際の必要となる感染予防策について対応を検討してください。

会議室や練習場等は、大声での発声が伴わない利用については、会場の換気、必要となる感染防止対策を総合的に講じた上で、定員までの利用が可能です。

一方で、条件が担保されない場合は定員を制限してください。なお、定員が設定されていない場合は、密が発生しない程度の間隔（最低限人と人とが接触しない程度の間隔）を空けてください。

公演を中止せざるを得ない事態に至った際の対応や係る費用等の分担について、必要に応じて設置者も交えて確認をしてください。

(2) 客席の配席（収容率）

来場者の配席については、原則として指定席にするなどして、主催者側で客席状況を管理調整できるようにしてください。

地域の感染の収束状況、公演の内容、上演時間、想定される観客層等を踏まえつつ、来場者による大声での歓声、声援、唱和等がないことを前提としうる公演については、必要となる感染防止対策を総合的に講じた上で、収容定員までの配席数（収容率100%以内 最前列席については後述参照。）とすることが可能です。

上記以外の公演については、マスク着用と発声の抑制の周知及び事業者による個別注意など必要となる感染防止策を総合的に講じた上で、原則として収容率を50%以内としてください。（異なるグループ間では座席を1席（立席の場合は1m）空けますが、親子等の同一グループ（5名以内）では座席間隔をあける措置は不要。すなわち、収容率は50%を超える場合もあり得ます。）

また、高齢者や持病のある方が多数来場すると見込まれる公演については、感染した場合の重症化リスクが高いことから、より慎重な対応を検討してください。隣同士の配席とする際には、座席のひじ掛けの使用について、原則、左

右いづれかに統一するように要請してください。

客席の最前列席は舞台上から十分な距離を取ることで、最低でも水平距離で2m以上を設けてください。それが困難な場合には、フェイスシールドの着用など距離を置くことと同等の効果の有する措置を講じてください。

(3) 公演関係者に関する感染防止策

公演主催者及び公演関係者は、その表現形態に応じて、出演者間で最低1mを目安とした十分な間隔をとるなど、可能な限り感染防止に努めるようにしてください。

公演時の出演者を除き、施設内ではマスク着用を原則とし、公演前後の手指消毒を徹底してください。

楽屋、控室、稽古場等でも不特定多数が触れやすい場所の消毒を定期的に行い、必要箇所に手指消毒用の消毒液を設置してください。

また、楽屋は密にならないように定員を調整するとともに換気を励行ください。ケータリングにおいては、使い捨ての紙食器を使用するなど、十分な感染防止対策を十分に講じること。

機材や備品、用具等の取り扱い者を選定し、不特定者の共有を制限してください。その他、練習・稽古や仕込み・撤去等においても十分な感染防止措置を講ずるようにしてください。

(4) 来場者に関する感染防止策

来場前の検温の要請とともに、来場を控えてもらうケースを事前に十分周知し、その際に来場者ができるだけ不利益を被らず、有症状者の入場を確実に防止できるよう、状況に応じてチケットの振替や払戻等の対応策を講じてください。来場者側の自己検温だけでなく、公演主催者側でも会場入場時に検温等の対策を講じてください。

入退場時の密集回避のため、時間差の入退場や導線の確保、人員の配置等を行うことにより、十分な距離（最低1m）の間隔を保持して下さい。

公演後の出待ちや面会等は控えるように注意喚起してください。

チケットシステム等の活用により、来場者の氏名及び緊急連絡先の把握に努めてください。また、来場者に対して、こうした情報が来場者から感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知してください。

公演中の携帯電話等の抑制案内は、接触確認アプリの作動を妨げないように「マナーモード」設定を推奨します。配慮が求められる来場者、障害者や高齢者等については事前に対応策を検討してください。交通機関・飲食店等の分散利用等の公演前後の感染防止についても注意喚起してください。

(5) 会場内での感染防止策

① 接触感染防止策

公演主催者は、会場内の不特定多数が触れやすい場所の消毒を定期的に行ってください。

公演主催者は、会場の出入口等の必要箇所に手指消毒用の消毒液を設置してください。不足が生じないように定期的な点検を行ってください。

物品を介した接触感染を防止するため、入場時のチケットもぎりの簡略化（来場者が自らもぎって箱に入れ、主催者は目視で確認する）等を検討してください。

チラシ・パンフレット・アンケート等の手渡しは極力避けてください。また、避けられない場合には手袋の着用を徹底してください。

公演後の面会等、公演関係者と来場者の接触は控えるように周知してください。プレゼントや差し入れ等は控えてください。

機材や備品、用具等の取り扱い者を選定し、不特定者の共有を制限してください。

来場者や関係者等、それぞれの立入り可能エリアを限定（来場者が楽屋エリア等に立ち入ること等を制限）してください。

② 飛沫感染防止策

公演の内容等によりますが、原則的には来場者は公演中、一方向を向き会話等が想定されないことから、公演中もマスク着用を徹底することにより、一定の感染抑制が可能となります。加えて休憩時間や入退場時に密集が発生しないように対策を講じてください。また、大声を出すものがいた場合は、個別に注意等を行ってください。

【公演関係者（特に出演者）⇔来場者間の感染防止策】

感染リスクが高まるような演出（声援を求める、来場者をステージに上げる、ハイタッチをする等）は控えてください。

来場者の案内や誘導に際しては十分な間隔（最低1m）を取るとともに、マスク着用に加え必要に応じてフェイスシールド等を着用してください。

来場者と接する窓口（招待受付、当日券窓口）等では、アクリル板や透明ビニールカーテン等の間仕切りを設置し、来場者等との間を遮蔽してください。

【来場者⇔来場者間の感染防止策】

客席内ではマスク着用を必須とし、未着用来場者に対しては配布や販売等や、個別に注意等を行うことにより着用を徹底してください。

休憩時間や入退場時間は、会場の収容人数や収容率、入退場経路等を考慮し、余裕ある時間を設けてください。

休憩時間や入退場時には会話抑制を周知するとともに、ロビー等での近距離における対面での会話や滞留を抑制するように促してください。

休憩時間や退場時の客席からの移動に際しては券種やゾーンごとの時間差とし、滞留を抑制してください。

休憩時間のトイレや飲食カウンター等では、ロビー等の広さを踏まえて、十分な間隔（最低1m）を空けた整列を促してください。

(6) 物販等

物販に関わる関係者は、マスクの着用に加え、必要に応じて手袋やフェイスシールド等を着用してください。

多くの者が触れるようなサンプル品・見本品は取り扱わないでください。オペラグラス等の貸出物について十分な消毒を行うとともに、十分な消毒が行えない場合は貸し出しを行わないようにしてください。

(7) その他

施設の運営上支障があると判断した場合及び施設の使用制限（休館）等の措置が行われる場合は利用許可を取り消す場合があります。

条件変更があった場合は、変更内容に沿った利用許可となります。

収容率について

ご利用の内容が「A（100%以内）」または「B（50%以内）」に該当するかは以下の項目を参考にしてください。

A. 【100%以内で利用できる許可条件】

地域の感染の収束状況、公演の内容、上演時間、想定される観客層等を踏まえつつ、来場者による大声での歓声、声援、唱和等がない公演。

（例：クラシック音楽コンサート、演劇等、舞踊、伝統芸能、芸能・演芸、公演・式典、講演会、展示会等）

固定席がない施設の利用については、適切な間隔を確保すること。

（小ホール、リハーサル室、カルチャールーム、音楽練習室等）

必要となる感染防止対策を総合的に講じている。

※来場者の配席については、原則として指定席にするなどして、主催者側で客席状況を管理調整できるようにしてください。

※客席の最前列席は舞台前から十分な距離を取ることとし、最低でも水平距離で2m以上を設けてください。それが困難な場合には、フェイスシールドの着用など距離を置くことと同等の効果をもつ措置を講じてください。

※高齢者や持病のある方が多数来場すると見込まれる公演については、感染した場合の重症化リスクが高いことからより慎重な対応を検討してください。

※隣同士の配席とする際には、座席のひじ掛けの使用について、原則、左右いずれかに統一してください。

B. 【50%以内で利用できる許可条件】

上記以外の公演

（例：ロック、ポップコンサート、スポーツイベント等）

固定席がない施設の利用については、十分な間隔を確保すること。

（小ホール、リハーサル室、カルチャールーム、音楽練習室等）

マスク着用と発声の抑制の周知及び事業者による個別注意など必要となる感染防止策を総合的に講じている。

※異なるグループ間では座席を1席（立席の場合は1m）空けますが、親子等の同一グループ（5名以内）では座席間隔をあける措置は不要。そのため、収容率は50%を超える場合もあり得ます。）